

住宅特集

484

2026
JUTAKU TOKUSHU

8

特集／庭

育てる場所をもつ

作品／十六題
佐伯聡子＋タン・K・M・
増田信吾＋大坪克巳
武田清明
手塚貴晴＋手塚由比
＋矢部啓嗣
森田一弥＋林誠＋角張渉
横内敏人
城戸崎博孝
魚谷繁礼 二題
服部信康＋古賀将太
中田大介
熊澤安子
井上洋介
古谷俊一
井原正揮＋井原佳代
井川充司

知輪「馬蹄庵」

ToMoWa "Bateian"
静岡県熱海市

手塚貴晴+手塚由比+矢部啓嗣／
手塚建築研究所

+大野博史／オーノJAPAN

Takaharu+Yui Tezuka+Keiji Yabe／
Tezuka Architects

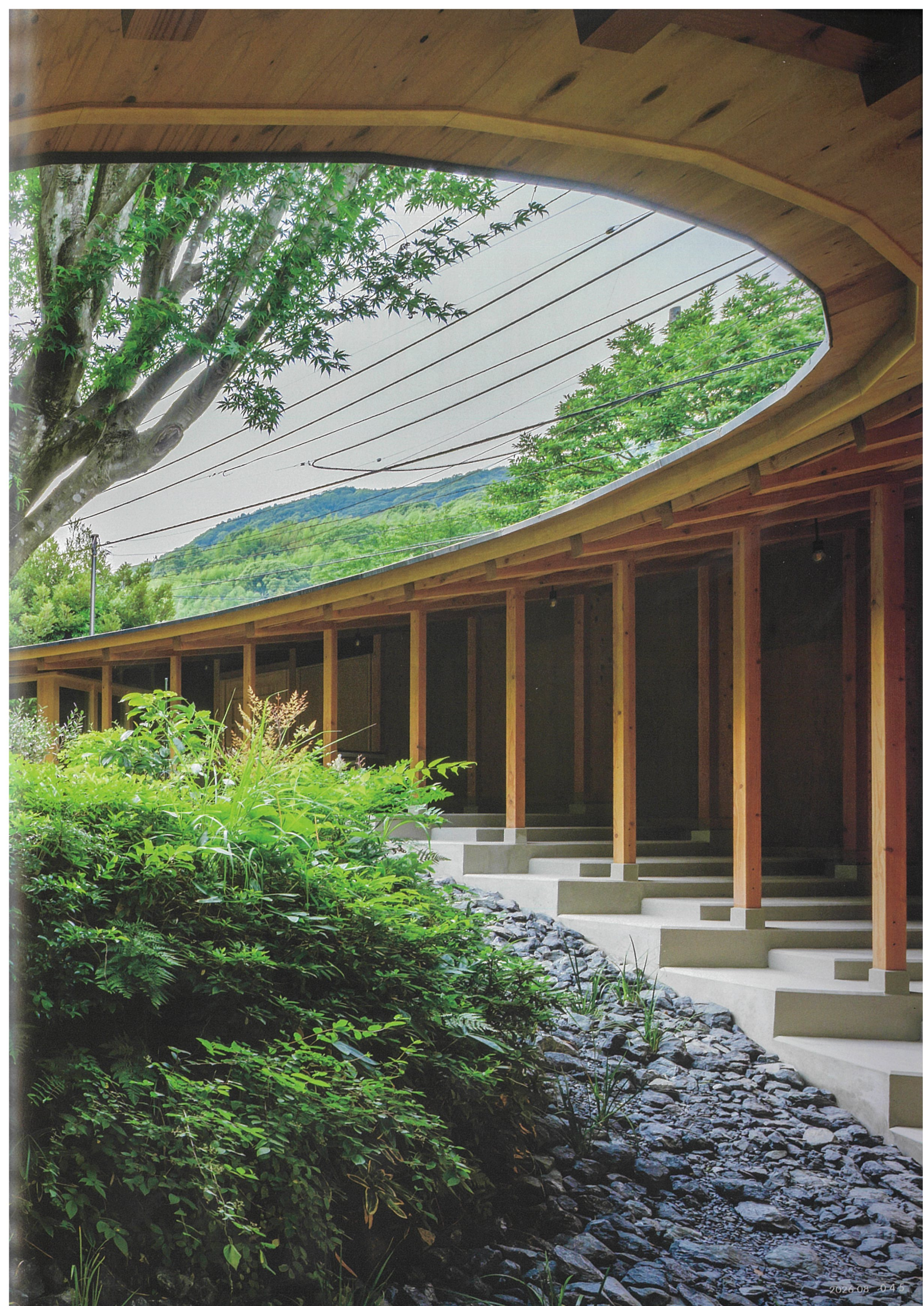
Hirofumi Ohno／OHNO JAPAN

西側俯瞰。熱海の溪谷沿いに建つ別荘。敷地は北から南にかけて傾斜しており、その中腹にある大岩やキササゲ、モミジといった既存樹を囲いとり、ようにヴォリュームを配した。敷地形状に沿うようにして屋根が螺旋形状を描く。





ダイニング前の軒下から北西側を見る。下段の間に客人を招く厨房とダイニング、上段の間にリビングや寝室、浴室といったプライベートな室を配し、それらを階段状の回廊が繋ぐ。庭には既存植物のほか、周辺の溪谷などに根付く在来種や、アボカドやハーブなどの食べられる植物を植えた。内周部の軒の高さは1,978～3,531mm。





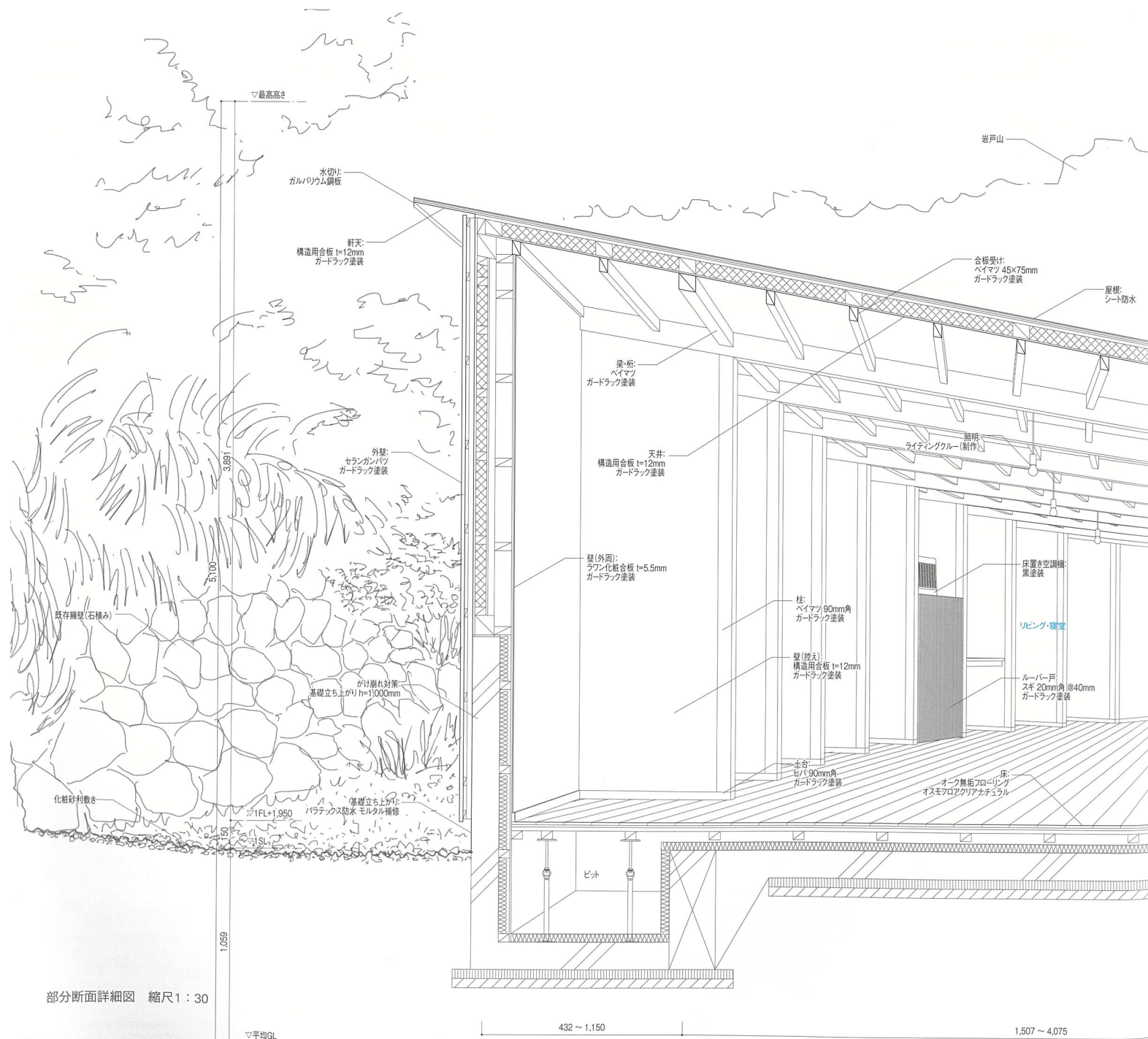
森を捕まえる

熱海は箱根外輪山から湧き出た温泉の町である。谷は十国峠に発し、天水は森へと降る。水は地中深くの保水層に抱かれながら糸川水系となって現れ、やがて藍色の熱海湾へと下る。敷地はその上流の支谷筋に面している。谷の向こうには手付かずの森が茂り、幽玄な影を絶えず描き続けている。樹木の神、五十猛命を祀る来宮神社を育てた糸川水系を遡った先にこの庵はある。庵と称するのは、日々の生活を営む本宅ではなく、客人を迎え入れるための別邸だからである。苔生した石組みが敷地の中ほどを横切る。2mほどの段差は葉陰の天蓋に覆われ、その足元で細菌叢と菌糸が静かに地中の織物を編み続けている。谷は落葉が長い歳月をかけて醸された柔らかな腐植に覆われ、水はその下を走り、ほとんど姿を見せない。敷地の中程に横たわる大岩

には素掘の祠が刻まれている。キササゲの根に覆われつつあるその祠の来歴は定かでない。馬蹄形の建築はその苔生した大岩を懐に抱き込みながら、敷地の高低差を繋ぎ、穏やかな螺旋を描いている。雨は低く伸びた軒先を伝い、切先から銀色の滴となって大地へ還る。屋根もまた天水を集める装置である。熱海には至る所から温泉が湧き出て匂う。ここは水を介して天地が出会う場所である。湾曲する大壁に穿たれた入口を抜けると、深い軒下へ導かれる。そこには太古の昔からこの谷に宿り続けてきた生命の気配が濃密に漂い、来訪者を静かに包み込む。庵の大半は軒下である。緩やかな螺旋階段は軒下に入り込んだ造園といってよい。この屋根が建物であるのか東屋であるのかは曖昧なままだ。内陣は玄関を介して二手に分かれている。上段の間は寝室。高台ではあるが海は見えない。

糸川の谷筋を頼りに立ち登る海風が、梢を微かに揺らし潮を届けるばかりである。寝室の奥には瓢箪型の浴槽が埋まっている。身を地に低く沈め、森の暁光を嗜む仕掛けだ。下段の間には厨房とダイニングがある。友人たちが集い料理を振る舞い合うサロンになる予定だ。軒先には地衣類に黒々と覆われた巖が立ち塞がり、静寂な雫を滴らせている。

木造の螺旋である。自由曲面ではあるが、奇を衒わず木構造の慣わしに従った。内側の桁行方向には梁がない。外側の桁行方向に十分な耐力壁があり、梁間方向に控え壁が細かく生えて強度を保っているからである。庭に並ぶ列柱は軸力のみを負担している。そもそもこの地は無数の命を育んでいる。その朴訥な構造が蝶の翅のような幾何学を描いたとしても、それは帰結に過ぎない。
(手塚貴晴+手塚由比)



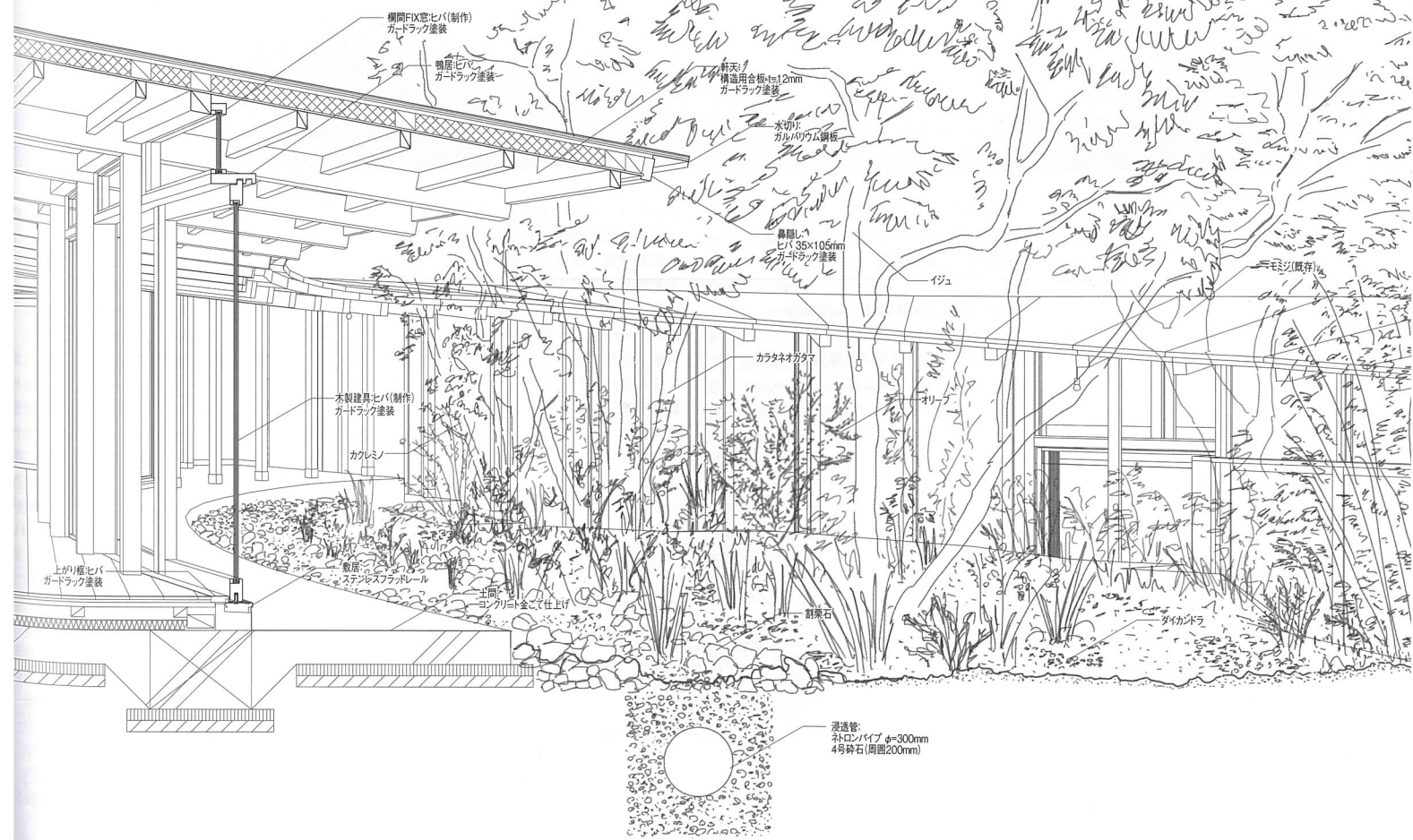
部分断面詳細図 縮尺1:30



階段から南西側を見る。もともとの地形に這わせて配置したダイニングとリビングの高低差は1,950mm。

オーダーのある自由曲面

大きなレベル差のある敷地をぐるりと囲うように計画された住宅。ひと続きの平面は、その幅と軒高の変化で繊細な距離感をつくり出している。アンモナイトのような平面は自由曲面である。アンモナイトが一定の秩序を保ちながら、殻を自由な形状に変化させるように、ここでも一定のオーダーリズムが必要だと考えた。そこで開放的な内周側ではサッシ規格に馴染む910mm間隔で柱を配置、外周には諸機能を納めやすい1,200mmをモジュールとしてそれを結ぶように節をつくり出している。節となる放射方向の間隔を細かくすることで、屋根を敷地形状に馴染ませるように捻りながら高さを調整することができている。耐力壁は、外周の外壁と家具側板部に配置し内周の開放性を確保している。(大野博史/オーノJAPAN)





南西側外観。

知輪「馬蹄庵」

所在地／静岡県熱海市
主要用途／別荘

設計

手塚建築研究所 担当／手塚貴晴 手塚由比
矢部啓嗣 古田優一
構造 オーノJAPAN 担当／大野博史
白鳥友耶
照明 ぼんぼり光環境計画 担当／角館政英

黒川祥穂

外構・造園 DAISHIZEN 担当／齊藤太一
鈴木俊 小出所拓海

施工

フゲン 担当／佐藤琢磨 山口哲也
堀井雄一郎
電気 井沢電気 担当／井澤寛史
給排水衛生 千本設備工業所
担当／野田真広
リオネクト 担当／櫛谷大我

プレカット 中東 担当／宮越久志
木造作 鈴木建築 担当／鈴木達也
広瀬建築 担当／広瀬光一
木製建具 星英木工 担当／水口英樹
金属 ケーアイ工業 担当／望月賢也
防水 田中防水 担当／田中則行
外構・造園 DAISHIZEN 担当／川原優人
金城史樹 村上忠史
構造・構法
主体構造・構法 木造在来工法

基礎 ベタ基礎

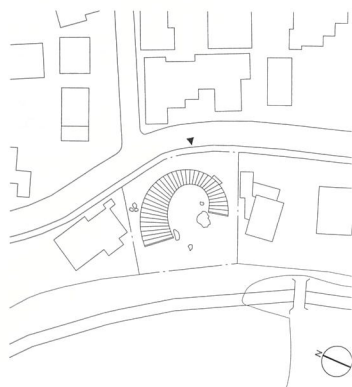
規模

階数 地上1階
軒高 4,903mm 最高高さ 5,100mm
敷地面積 825.29m²
建築面積 141.75m²
(建蔽率17.17% 許容60%)
延床面積 118.70m²
(容積率14.38% 許容200%)

工程



断面図 縮尺1:400



配置図 縮尺1:2,000



西側俯瞰。庭の樹木と南西側の渓谷沿いの森林が繋がる。



北東側外観。外壁は幅105mmのセラガンバツを張った。



浴室外観。浴槽は床から掘り下げてつくった。軒高は4,903mm。

設計期間 2023年6月～2025年3月
 工事期間 2025年4月～2026年6月
 敷地条件
 地域地区 都市計画区域内 区域区分非設定
 第2種中高層住居専用地域 法第22条区域
 第1種高度地区
 道路幅員 北東8m 駐車台数 3台
 外部仕上げ
 屋根/シート防水
 外壁/セラガンバツ t=20mm
 開口部/木製ガラス框戸(制作)
 外構/碎石敷き ダイカンドラ 割栗石
 内部仕上げ
 リビング・寝室
 床/オーク無垢フローリング t=15mm
 w=150mm (オスモカラー)
 壁/ラワンベニヤ t=5.5mm ラーチ合板
 t=12mm
 天井/ラーチ合板 t=12mm
 厨房機器/
 換気扇(シェード)/有圧換気扇(低騒音ス
 テンレスタイプ)(三菱電機 EF-20YSXC2)
 家具/制作
 照明/ライティングクルー toolbox
 建築金物/ベスト(施錠金物) スガツネ(扉

金物など)
 シンク水栓金物/ SANEI toolbox
 空調機器/ダイキン
 厨房 ダイニング
 床/オーク無垢フローリング t=15mm w=150mm
 (オスモカラー) 長尺塩化ビニルシート
 壁/メタカラーキッチンパネル むくふねん(ヒ
 ノキ)
 天井/むくふねん(ヒノキ)
 厨房機器/
 食洗器/テンポス アンダーカウンタータイプ
 TBDW-400FU1
 ガスコンロ/マルゼン NEWパワークック
 RGR-0963D
 換気扇(シェード)/三菱電機 シロココファン
 BFS-150SXA2
 家具/制作
 照明/ライティングクルー パナソニック
 山田照明
 建築金物/ベスト(施錠金物) スガツネ(扉
 金物など)
 シンク水栓金物/ SANEI
 浴室 トイレ1 シャワー
 床/モールドックス
 壁/FRP防水クリア

天井/ラーチ合板
 家具/制作
 照明/ライティングクルー toolbox
 バスタブ/制作
 シャワー水栓金物/ SANEI 水生活製作所
 トイレ2
 床/長尺塩化ビニルシート
 壁/ラワンベニヤ t=4mm ラーチ合板 t=12mm
 天井/ラーチ合板 t=12mm
 照明/ライティングクルー
 建築金物/三和ロック(ドアノブ) ベスト(施
 錠金物) 制作(サッシ)
 便器/ LIXIL
 洗面用水栓金物/ SANEI
 設備システム
 空調 冷暖房方式/業務用エアコン床置き
 型 壁掛けエアコン
 換気方式/第3種換気
 給排水 給水方式/公共上水道直結
 排水方式/公共下水道直結
 給湯 給湯方式/ガス給湯器

撮影/新建築社写真部

手塚貴晴(てづか・たかひろ)

手塚由比(てづか・ゆい)



(手塚貴晴・左) 1964年東京
 都生まれ/1987年武蔵工業
 大学卒業/1990年ペンシルバ
 ニア大学大学院修了/1990
 ～94年リチャード・ロジャース・パートナーシッ
 プ・ロンドン/1994年手塚由比と手塚建築研
 究所を共同設立/2005～06年ザルツブルグ・
 サマーアカデミー教授/2006年UCバークレー
 客員教授/2009年東京都市大学教授
 (手塚由比・右) 1969年神奈川県生まれ/1992
 年武蔵工業大学工学部建築学科卒業/1992～
 93年ロンドン大学バートレット校(ロン・ヘロン
 に師事)/1994年手塚貴晴と手塚建築研究所
 を共同設立/2006年ザルツブルグ・サマーア
 カデミー教授/2006年UCバークレー客員教授

矢部啓嗣(やべ・けいじ)



1986年岐阜県生まれ/2010
 年東京理科大学工学部建築学
 科卒業/2012年武蔵野美術
 大学大学院造形研究科修士課
 程修了/2012年～手塚建築研究所/2020年
 ～同パートナー